



入試問題にチャレンジ

さて、席替えも滞りなく？決定し、最後のやる気を出そうとしているところに違いない。3年生は、私立の発表が一段落し、国公立前期の発表の真っ最中である。

昨日も、秋田大学医学部に合格した生徒が、うれしそうに報告にやってきた。実はセンター試験で失敗してしまい、思うように得点ができなかったことから、当初出願を予定していた大学を変更し、二次試験の配点の比重が高く、しかも自分の得意とする科目で受験することのできる大学を目指すことにしたのである。当初予定していた大学とは異なる選択をしたため、センター試験後から、新たに志望することにした大学の過去問に切り替えて準備をしたわけだが、毎日学校に通って添削指導をしっかりとこなし、1ヶ月で実力を着実に伸ばして現役合格にこぎ着けたのである。本当によく努力していたので、その結果が開花したことを心から喜びたい。

前々から言われているように、日比谷生は最後の最後まで力が伸びる。10月の模試でE判定ばかりだった生徒が、最終的には志望校に合格していく姿を私たちは毎年のように目の当たりにしているのである。そのことをもう一度君たちにも伝えておきたいと思う。

さて、色々な大学入試の問題も、ネットなどに公開され始めている。自分の興味のある大学の問題をチェックしてみたらどうだろう。いやいや、まだ1年生だし、出来っこない…と思うかも知れないが、勉強に関しては星陵像のように背伸びしてみることも大切だ。できないからこそ、つまり、目標の高さが分かるからこそ、次に向かっての努力の思いもわいてくるというものである。

「東大、東大」と言うのが気になるという人もいるようだが、入試問題に関して言うと、東大の問題は本当にイイ問題である。今年の問題を私なりに分析してみよう。

*

現代文の四は、昨年の問題に比べると大幅に取り組みやすかったのではないかという印象。一の評論も、(二)が難しいが、残りは標準的である。古文は源氏からの出題で、それだけでビビる諸君もいるかも知れないが、第一段落は源氏、第二段落は玉鬘、第三段落は源氏と、主体がきちんと読み取れば、それなりの点数にはなったのではないかと思われる。右近が主語になる(三)の問題は、どう答えをまとめたものか、迷った諸君もいるかも。(四)の「あやみやし」が「うやうやし」の意であるというのもちょっと難しいと思うが、「礼儀正しく」の訳が出なくても、「表面を取りつくろって」といったニュアンスには訳せたのではないだろうか。(五)は、源氏に関する常識がものを言う面もあり、受験生にはちょっと厳しいような気がする。漢文は、すごく楽しい文章であるが、答えをまとめようとする手こずりそうな感じである。訳の問題では、「須」が再読文字しか浮かばないと難しい。(二)は、答えるべきことは分かるが、どこから述べ始めたらよいのか迷った人がいるのではないだろうか。(四)も、簡単そうに見えるが、いざまとめようとすると、なかなかうまくまとまらないかも。総じて読解力をみる良問ばかりと言えよう。

*

どう、チャレンジしたくなった？